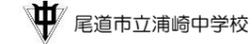


学校教育目標	「未来を生きる力を育む」	<育む3つの資質・能力> 基礎的・基本的な知識・技能 × 「主体性」「協働性」「創造性」
--------	--------------	--

a ミッション	令和7年度に期待したいこと（スクールミッション）/尾道市教育委員会 地域力を生かし「オール浦崎」で取り組む 主体的に学ぶ力の育成	a ビジョン	本校に通うすべての生徒が、自分の人生をしあわせに、そして希望をもって歩いていけるよう、「未来を生きる力」を育む教育を目指す。
---------	---	--------	--



評価計画				自己評価					学校関係者評価			改善計画		
b 中期経営目標	c 短期経営目標	d 目標達成のための方策	e 評価指標	f 目標値	7月	1月	h 達成度	i 評価	j 結果と課題の説明	k 二次評価			l コメント	m 改善案
					g 達成値	g 達成値				イ	ロ	ハ		
学んだ知識をもとに「生き方」まで学び育む学校	個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実	<ul style="list-style-type: none"> ■多様な学びの選択肢のある授業 生徒一人ひとりの特性や学習進度、学習到達度に応じて、選択肢のある教材の柔軟な提供や、個別の支援により基礎的・基本的な知識技能の確実な定着を図る。 ■学ぶ意欲の向上と知識・技能の定着「まなびチャレンジ」 試験期間中の6時限目は、各教科の目標達成に向けて、自分なりの計画と、自分なりの方法で学びを進め、基礎的・基本的な知識・技能の確実な定着を図る。 ■自立した学び手の育成「マイプラン学習」 各教科の一部の単元において、自ら学習計画を立て、多様な学習材やICTの活用などによる学習方法により、自ら調整を図りながら学びを進める力を育成する。 	<ul style="list-style-type: none"> □全国学力学習状況調査・標準学力調査（学校独自の調査を含む）において、正答率が全国平均正答率を上回った生徒の割合 	50%以上	39%	78	C	<ul style="list-style-type: none"> ○各種学力調査（国語・数学・理科）の結果は、1年生から、2年生、3年生と学年が上がるにつれて全国平均を上回ることが難しくなっている。また、学年・教科によっては、全国平均から大きく下回る結果もあり、基礎的・基本的な知識・技能の定着に大きな課題がある。 ○今年度から、本格的に取り組んでいるマイプラン学習(生徒自身が学習進度を調整しながらおこなう学習方法)では、生徒自身が自己調整しながら学習に取り組むことができています。上記の学力調査の実態を踏まえながら、個別最適な学習支援をおこなう必要がある。 	9	0	0	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒主体で、自ら考えて行動する考えが生徒に伝わり実行されていると思う。 ・「マイプラン学習」の達成値は高いが、各種学力調査の結果で学年が上がるにつれて、全国平均を上回ることが難しかったり、基礎的・基本的な知識・技能の定着に課題がある。 ・それぞれの教科に興味を持てるように工夫する。 ・生徒、それぞれ苦手なところは必ずあると思うが、逆に得意なところもあると思う。マイプラン学習では、改めて自身のことを客観的に見れ、分析できるので良い取り組みだと感じる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○基礎的・基本的な知識技能の確実な定着を図るため、小学校高学年児童と中学1年生の授業をそれぞれの教員が相互に参観する等、教科の系統性を踏まえ授業を構想する。 ○「まなびチャレンジ」の取組で、各教科の目標達成に向けて、自分なりの計画と自分なりの方法で学びを進めることを通して、生徒一人一人が基礎的・基本的な知識・技能の確実な習得を図る。また、小規模校の特性を活かし、教科や学年の枠を超えて、PDCAサイクルで生徒の学びが進むよう伴走・支援していく。 ○「マイプラン学習」の取組では、指導の個別化と学習の個性化を軸とし、深い教材研究と多様な学びの選択肢を学習環境として整え、生徒一人一人が学びを自己決定・自己調整する。(一人一単元の挑戦/年間) 	
		<ul style="list-style-type: none"> ■総合的な学習の時間「まなびクエスト」の充実 「ローカル」郷土「浦崎」の生活と自然から、「グローバル」国際協働学習を通して、本物の社会に当事者として向き合う学びの充実を図る。 ・1年生「海の森プロジェクト」 ・2年生「生き方と働き方」「世界のとびらをひらく」 ・3年生「アートマイルプロジェクト」「人生の扉をひらく」 	<ul style="list-style-type: none"> □生徒アンケート「『まなびクエスト』の時間では、学級の生徒との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気づいたりすることができていますか」の問いに肯定的な回答をした生徒の割合 	80%以上	100%	125	A	<ul style="list-style-type: none"> ○各学年で実施している「まなびクエスト」においては、社会に開かれた教育活動を生徒が主体におこなうことにより、有意義な活動になっている。 	9	0	0	<ul style="list-style-type: none"> ・学校主催の「まなび」シリーズは、生徒にとっても地域にとっても非常に良いと思う。 ・学校のスピード感を持った特別授業やえいじゃんなどの生徒の取り組みなどは評価できる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○「まなびクエスト」では、各学年が計画的に取り組む。自ら計画・立案し、仮説を立て、実践・検証していくことで、生徒自身が当事者意識を持って本物の社会に参画できる教育活動を行う。特に9月以降、これまでの計画・準備に基づいて検証・活動を行い、改善を図っていく。 	
		<ul style="list-style-type: none"> ■生徒による自治活動の充実 生徒会活動や「えいじゃん・SANSAGARI」「浦崎大運動会」「中学校音楽コンクール」などの行事は、生徒が主体となって成功をめざし、多くの生徒とともに感動を味わいながら企画・運営を実践的に学ぶ場とする。 	<ul style="list-style-type: none"> □生徒アンケート「浦崎中学校は、何事にも一生懸命に取り組むことができる学校だと思う」の問いに肯定的な回答をした生徒の割合 *生徒が掲げた「めざす学校像」と関連する問い 	80%以上	92%	115	A	<ul style="list-style-type: none"> ○えいじゃん、浦崎大運動会などの学校行事では委員会を設立し、生徒が企画・運営をおこない実践的な学びの場になるように支援した。 	9	0	0	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒間で話し合う活動で考えを深めたり、新たな考えに気づいたりした達成値100%はたいへん良いことだと思う。 	<ul style="list-style-type: none"> ○自治活動充実のため、生徒のアイデアや意見を取り入れながら、引き続き実行委員会形式で生徒主体の活動を促す。また、生徒会役員選挙に伴う執行部の引き継ぎも丁寧に行い、生徒が掲げた「めざす学校像」実現に向け、伴走・支援する。 	
		<ul style="list-style-type: none"> ■特別授業「まなびスペシャル」の充実 各界の著名な講師との出会いで社会を意識し、自らの生き方を見つめる学びの充実を図る。 ・ゲストティーチャー 小林紀子バレエシスター（文化芸術） 広島サンダース（スポーツ） 廣中正樹氏（世界平和） 	<ul style="list-style-type: none"> □生徒アンケート「特別授業では、自分自身を見つめたり、これからの自分自身の在り方や生き方を考えたりすることができましたか。」の問いに肯定的な回答をした生徒の割合 	80%以上	91%	113	A	<ul style="list-style-type: none"> ○様々な講師との出会いを通じて、生徒自身が自己を見つめる機会を提供できている。今後も様々な場面を教育活動で提供していく。 	9	0	0	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒が主体となって、活動、行事を企画・運営することは、さらに進めていってもらいたい。 ・4月から学校の様子を見せてもらっているが、去年と比べると落ち着いており、良くなっていると思う。 	<ul style="list-style-type: none"> ○「まなびスペシャル」Ⅰ・Ⅱ・Ⅲで得た知見やその視点を、普段の学校生活に生かし活用・表現できるよう、まなびの環境整備を整える。 	
		<ul style="list-style-type: none"> ■「学校が楽しい」と実感できる学校づくり 生徒が「自分らしくいられる」「挑戦できる」「つながりを感じられる」学びの場を、生徒とともに創り上げる。 	<ul style="list-style-type: none"> □生徒アンケート「学校に行くのは楽しいと思いますか」の問いに肯定的な回答をした生徒の割合 	100%	77%	77	C	<ul style="list-style-type: none"> ○登校することに対して、肯定的に回答した生徒の割合は77%であった。否定的な回答をした2割の生徒を含め、全生徒に対し、生徒の実態をみとり、個別の伴走・支援の充実をおこなっていく。 	9	0	0	<ul style="list-style-type: none"> ・アンケート結果に基づいて個別のヒアリングが必要な時は実施して欲しい。 	<ul style="list-style-type: none"> ○全生徒が、学校に登校することに意義を持ち、「学校に行くのが楽しい」と答える生徒100%となるよう、2学期当初に全員面談を行う。面談で得た情報は共有し、丁寧な生徒観察を学校全体で行い、背景や要因を探るとともに保護者連携を密に行う。 	
信頼される学校づくり	子どもとも向き合い、時に組織風土の醸成	<ul style="list-style-type: none"> ■秩序と活力のある教職員風土の醸成 生徒の健やかな成長と学びを支えるため、基本理念に基づいた秩序ある組織運営と、互いの専門性を尊重しながら意欲的に取り組む教職員風土づくりを推進する。 	<ul style="list-style-type: none"> □教職員アンケート「私は、学校教育目標の達成に向けた取組に参画している」の問いに肯定的に回答をした教職員の割合 	90%以上	100	111	A	<ul style="list-style-type: none"> ○学校教育目標の達成に向けた取組に参画した教職員の割合は100%であった。生徒の健やかな成長を成長と学びを支えられるよう、より良い参画について協議し、実践する。 	8	0	1	<ul style="list-style-type: none"> ・学校生活での様々なことに対し生徒と話す機会を作っていると思う。中学生という難しい時期だが、改めて大人も良い距離で見守る必要があると感じる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○学校教育目標の達成に向けて、生徒の変容していく姿から、取組に参画しているかどうか判断していく。 ○積極的な業務改善（5時間授業の推進など）を行う。時間外勤務を月45時間以下にすることを各教員が意識し、子どもと向き合う時間の確保を通して教育の質の向上と、ワークライフバランスで豊かな生活と両立を図る業務遂行の風土を作っていく。 	
		<ul style="list-style-type: none"> ■業務改善・働き方改革の推進 教職員のワークライフバランスの実現と、より豊かな教育活動の推進の両立を図ることを目指す。 ・業務の精選と見直し ・業務分担の適正化とチームでの支援体制 ・教職員の意識改革 	<ul style="list-style-type: none"> □時間外勤務が4.5時間以下(月)である教職員の割合 	60%以上	52%	87	B	<ul style="list-style-type: none"> ○時間外勤務45時間以下(月ごと)の達成率は87%であった。ワークライフバランスの実現でより豊かな教育活動推進のため、引き続き業務のチーム支援体制、見直しを持った業務遂行に取り組む。 	9	0	0	<ul style="list-style-type: none"> ・様々な分野で働き方改革がいわれる中、以前に比べれば改善されていると思うが、さらに効率的な業務改善が必要である。 		

【自己評価 評価】
 A：100≦（目標達成）
 C：60≦（もう少し）<80

B：80≦（ほぼ達成）<100
 D：（できていない）<60

【外部評価】 イ：自己評価は適正である。ロ：自己評価は適正でない。 ハ：わからない。